

広報 土づくり 4

施設から出て結婚、そして今。

ホームケア土屋大阪のクライアント、佐野真由美さん。長らく関西の重度訪問介護従事者養成研修の実習講師としても活躍していました。コーデイネーターの高橋沙苗さんにお力添えいただきながら、今回は、佐野真由美さんの亡きご主人との思い出を中心に伝えします。

神戸市で生まれ育った佐野真由美さん。出生時、難産による脳への酸素欠乏で、脳性麻痺となりましました。幼少期はよく泣いていたと言いますが：

佐野：5〜9歳までの4年半、リハビリで長期入院していました。週に1回、家に帰るのですが、病院に戻る時は親と離れるのが寂しくて、よく泣いていました。

その病院には幼稚園や小学校もあつたので、入院中はそこで勉強していたんです。今では考えにくいけど、昔はそういう療育型の施設があつたんです。

4人兄弟で、兄と姉、妹がいる佐野さん。小さい頃は意地っ張りだったそう。佐野：姉と妹がバレエを習っているから、私も自分ができないのが分かってはなかつたんです。けれど、よそのお母さんが姉と妹だけを食事に連れて行った時に、「すっぴんわ」って怒っちゃって。「どうして私は連れて行ってくれないの」と。とても行きたかつたんです。今考えると恥ずかしいし、一番後悔していることです。

退院後、佐野さんは養護学校（現特別支援学校）に通います。

佐野：私の学年は、私より障害が重い子が多かつたから、よくお世話をしていました。その頃は、今よりもずっと自分で自分のことはできていたので。

文化祭で役員を務めたり、生徒会にも入つたりと、活発だった佐野真由美さん。周りの生徒にも慕われていましたが、心残りがあると言います。

佐野：引越して、2回学校が変わっているんです。勉強ができる方ではなかつたんだけど、英語の授業を



(プロフィール)
佐野真由美
昭和38年生
障害：脳性麻痺

受けたことがなくて。もっと英語を勉強したかったです。

高校卒業後、佐野さんは施設に入り、寮生活をします。そこで彼女は、後にご主人となる人と出会います。

佐野：最初は友達だったんです。彼には恋人がいたし、私も付き合っている人がいました。だから、告白されたのは出会ってから5年ほどあと。主人は後々、「初めて会ったときに声をかけたかつたけど、彼女がいたんで：」って言ってました(笑)

徐々に惹かれ合い、付き合うことになった二人。当時は振り返り、若かりし頃のご主人について懐かしそうに語ります。

佐野：彼は筋ジストロフィーだったんですが、当時は歩けたし、見た目は健康者みたいな感じでした。価値観がよく似ていて、優しかった。付き合っていくうちに、もっと自由になりたいと思い、彼と結婚したくて施設を出ました。

4年の恋人期間を経て、二人は結婚。在宅で暮らし始めます。佐野さん29歳、ご主人が30歳のときでした。

佐野：私たちが入所していた施設は主人の職場でもあつて、彼はそこでプラスチック加工をしていました。二人で暮らしながら、主人はそこに通って仕事をして、私もまだ自分のことを自分でできていたから、好きな家事をしていました。

「私にとって最高の主人でした」佐野さんがそう語る背景には、彼女を支え続けたご主人への深い信頼がありました。

佐野：私ができないことは、全部主人がしてくれていたんです。炒め物や揚げ物の調理が怖かつたので、そこは主人が。車でいرونなところにも連れて行ってくれたし、大変だとかいう思いもなく、楽しく生活していました。



最初の9年くらいは、私は動けていたんですが、徐々に動けなくなってきました。ヘルパーさんに来てもらいましたが、最初は1週間に2回、2時間だけ。だから主人は、自分も障害があるのに、私をトイレに連れて行ってくれて、失敗しても後始末をして一生懸命に世話をしてくれて、ずっとそばにいてくれました。



ヘルパーによる支援は、2、3年後から朝と夕方に2時間ずつと、徐々に増えていきますが、二人だけにいる時は献身的に自分を看ってくれていたと言います。しかし、結婚20年後、ご主人は障害が重くなり、入院。別々に暮らすことに。

佐野…主人が入院して私は一旦、実家に戻りましたが、その後、重訪の制度を使って一人暮らしを始めました。主人は入院から6年後に亡くなりました。ご主人が亡くなってから4年あまり。佐野さんは自身の生活の変化をこう語ります。

佐野…主人がいる頃は色んな所に気が向いたら行っていましたが、今はなかなか。主人には自分の思いをいろいろと伝えることができたんですが、ヘルパーさんには言える時と、言いにくい時があるので。

それでも、一人暮らしを満足に、快適に過ごしているという佐野さん。9つほどの事業所で日中の生活支援や外出支援を利用し、週に1回はプールで水中ウォーキングを、そして週2回はリハビリも受けています。ただ、困っていることもあるとのこと。

佐野…夜間のサービスは使っていないので、ベッドに入るともう何もできないんです。21時か、22時前にもう寝る生活で、朝は起きてもヘルパーさんが来るまで、ずっとベッドの上でぼーっとしています。その時間をもう少し、有効に使いたいです。

日常を丁寧にごす佐野真由美さん。整理の行き届いた部屋で、パソコンでネットショッピングをするのが楽しみとのこと。美容も大好きな佐野さんは、お肌もすべすべもちもちです。

佐野…コロナ禍になって、怖くて美容院やショッピングにも行けなくなりました。今は近所に出かけるくらいです。でも、できるだけ暮らしやすいようにネットで家電を購入したり、家計簿もパソコンで付けています。今は美颜ローラーが欲しいです。年々頬が下がってきてるから(笑)

コーディネーターの高橋沙苗さんは、佐野さんは「すごく優しい方」と話します。腰の悪いヘルパーがケアする際にも、とても気を使ってくれたそう。そんな穏やかで優しい佐野さんが伝えたいことは。

もつとヘルパーさんが増えてほしいです。ヘルパーさんが今少なくなっているから、利用者がわがままを言ったり、怒ったりするのはなく、感謝の気持ちを伝える方がいいかなって思います。私も自分では気を付けているんだけど、気づかないうちに、ヘルパーさんに嫌な思いをさせているかもしれない。だから、ヘルパーさんの気持ちを考えて大事にしたいです。大人の対応をしないとヘルパーさんも段々減っていくって、そうやって一番困るのが自分たち。これからもこの生活を維持できるようにしていきたいです。



株式会社土屋の
オフィシャルサイトが
リニューアルしました!

New!



広報・土づくりへの ご意見・ご感想

今後取り上げてほしいテーマなどをお聞かせください
また、株式会社土屋の取組みについて
のご意見もお寄せください。
ご意見・お問い合わせ窓口
client@care-tsuchiya.com



株式会社 土屋

- 本社:岡山県井原市庵原町192番地2久安セントラルビル2階
- ホームケア土屋 45拠点(42都道府県)
- 訪問看護ステーション土屋 4拠点
- 土屋ケアカレッジ 15校舎、デイホーム土屋 2拠点
- 相談支援 1拠点、グループホーム 1拠点
- コミュニティホーム 1拠点
- 就労継続支援B型事業所 1拠点

家族 あなご

時は廻りて

この季節は「桜ほろ散る、院の庄」と、子供の頃住んだ岡山の田舎で親しまれている民謡「忠義桜」の冒頭を思い出します。備前の武將児島高德が隠岐に流される後醍醐天皇の奪還を試みるも失敗し、桜の幹に「天莫空勾踐 時非無范蠡」天は勾踐(こうせん・中国の王)を見捨てません、時が来れば范蠡(はんらい)のような忠臣が助けてくれます。と、10文字の詩を刻み残したという故事を元に作られた歌です。

さて、重度障害がある夫は生活する上で出来ないことが多いのですが、「困った」状態の時に親切に手助けして下さる方が増え、とても感謝しています。昔は障害があるというだけで面と向かって悪意を向けて来る人がいて、車いすの夫を「邪魔だ」と言葉や態度で表したり、妻の私に「何故障害者と結婚したの?」とか、娘を妊娠中には「おなかの子はご主人の子?」と失礼な事をわざわざ言ってきた人も居ました。最近では、そういう非常識な人に出会う事はなくなりましたが、誰かが困っていても助けを求めても、全く無関心な人を見かけると残念な気持ちになります。私は「人に助けて貰ったら、本人にはなくてはならないから、助けが必要な人に返しなさい」と教わりました。これは介護職を選んだ理由の一つです。今までの人生の中で受けた恩を少しずつ返す感覚です。あ、助けが必要な事の多い夫と結婚したのは、親切心や忠義心ではなく、純粋に「愛情」ですよ? 念のため こもとゆみこ